

心理学の基礎<1>

第12回 発達

担当／浜村 俊傑

本日の授業内容

1. 前回の復習
2. 本日の目的と到達目標
3. 発達心理学の論点
4. 発達の理論
5. 出生時発達と新生児
6. 乳児期と児童期
7. 青年期
8. 成人期以降

前回の復習

動機づけとは

- ◆行動に力を与え方向づける欲求や欲望
- ◆動機づけは「**本能(instinct)**」「**動因(drive)**」「**欲求の階層(hierarchy of needs)**」など様々な捉え方がある
- ◆**ホメオスタシス**とは一定の状態を保つ性質を指す
- ◆摂食行動や性行動への動機づけは生物学的・心理学的・社会文化的影響を受けている

前回の復習

- ◆所属への動機づけは幸福感や困難などに関連しており、オンライン上でも同様の傾向が確認されている
- ◆動機づけは仕事やパフォーマンスと関係しており、職場の満足度に影響する
- ◆リーダーシップには**課題リーダーシップ**と**社会的リーダーシップ**に分類され、従業員の動機づけに影響を及ぼす

本日の目的と到達目標

目的

人の心がどのように発達するのかを学ぶ

到達目標

- ◆発達心理学における連続性と段階性を評価することができる
- ◆児童期までにみられる発達機能が理解できる
(対象の永続性, 数量の保存, 心の理論 等)
- ◆思春期以降の発達の特徴を述べることができる

発達心理学の論点

生得要因と獲得要因

- ◆どのようにして生得要因は獲得要因と相互作用しているのか

連続性と段階性

- ◆どの部分が連続的なのか（エスカレーターのように徐々に上がっていく）、段階的なのか（突然変化するのか）

安定性と変化

- ◆どの特性が一生安定しているのか、変化するのか

発達理論

ジャン・ピアジェ(Jean Piaget)の認知発達段階

年齢の範囲	段階の記述	発達上の現象
出生～2歳近く	感覚運動期 (Sensorimotor stage) 感覚と運動を介して世界を体験する	<ul style="list-style-type: none">・ 対象の永続性・ 人見知り
2歳～6-7歳	前操作期 (Preoperational stage) 物事を言葉や絵で表現する	<ul style="list-style-type: none">・ ごっこ遊び・ 自己中心性
7歳～11歳頃	具体的操作期 (Concrete operational stage) 出来事について論理的に思考する	<ul style="list-style-type: none">・ 数量の保存・ 数学的変換
12歳以降	形式的操作期 (Formal operational stage) 象徴的推論	<ul style="list-style-type: none">・ 抽象的理論・ 成熟した道徳的推論

発達理論

ローランス・コールバーグ(Lawrence Kohlberg)の 道徳的思考の水準

年齢の 範囲	段階の記述	発達上の現象	例
9歳未満	前習慣的道徳性 (Pre- Conventional)	私利。罰を受けて具体的な報酬を得るルールに従う	「先生を助ければヒーローになれる」
青年期 初期	習慣的道徳性 (Conventional)	社会的承認を得たり社会的秩序を保ったりするために法やルールに従う	「その薬を飲んだら、みんなに犯罪者だと思われる」
青年期 以降	脱習慣的道徳性 (Post- Conventional)	行いは基本的人権や自ら定義した倫理的原則を反映する	「人間には生きる権利がある」

発達理論

エリク・エリクソン(Erik Erikson)の心理社会的発達の段階

年齢	時期	心理的課題	導かれる要素
生後～	乳児期	基本的信頼 vs. 不信	希望
18カ月～	幼児前期	自律性 vs. 恥, 疑惑	意思
3歳～	幼児後期	積極性 vs. 罪悪感	目的
5歳～	学童期	勤勉性 vs. 劣等感	有能感
13歳～	青年期 (思春期)	同一性 vs. 同一性の拡散	忠誠心
20-39歳	成人期	親密性 vs. 孤独	愛
40-64歳	壮年期	生殖 vs. 自己吸収	世話
65歳～	老年期	自己統合 vs. 絶望	賢さ・英知

出生時発達と新生児

受精から9カ月後の新生児までの過程

接合子(zygote)

◆受精卵

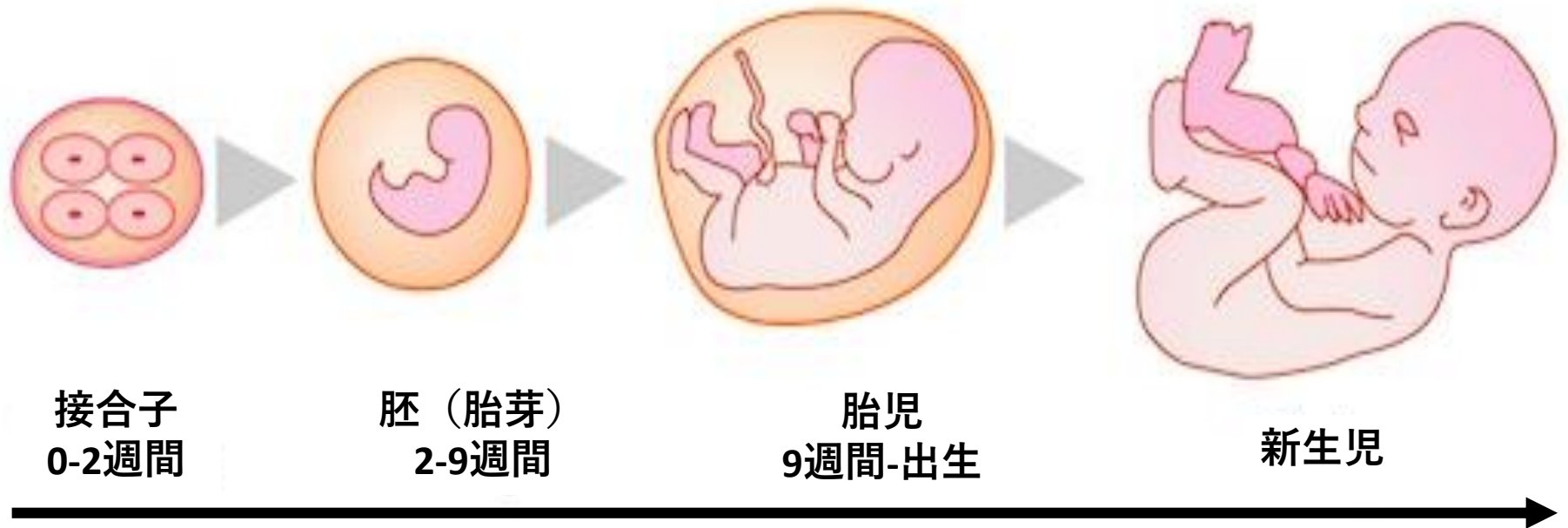
胚（胎芽）(embryo)

◆受精後約2週間から2カ月までの成長中のヒト身体組織

胎児(fetus)

◆妊娠後9週から誕生までの成長中のヒト身体組織

出生時発達と新生児



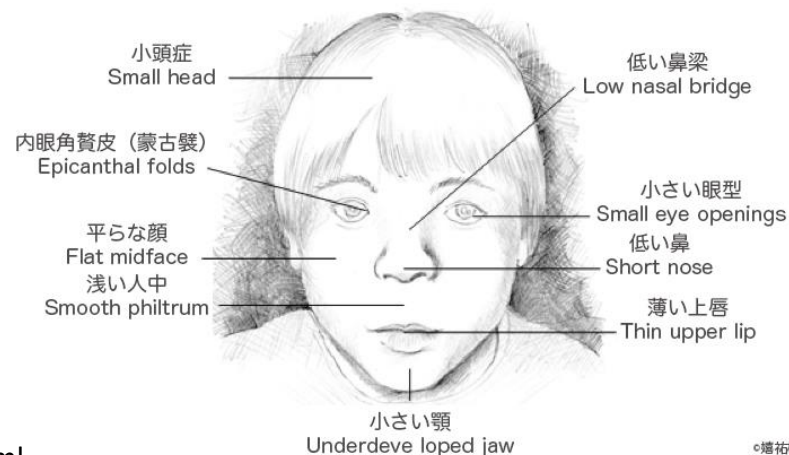
shutterstock.com • 1544382839

出生時発達と新生児

胎児性アルコール症候群

(fetal alcohol syndrome; FAS)

- ◆ 妊婦の過剰な飲酒を原因として、生まれてきた子どもに生じる身体的・認知的異常
- ◆ 重度の場合は顔の造作の不釣り合いが現れる
- ◆ 少量飲酒でも胎児の脳に影響を及ぼし得る (Sayal et al, 2009)
- ◆ 妊娠中の飲酒は控えるべき



乳児期と学童期

感覚運動器 (sensorimotor stage)

- ◆ 出生～2歳頃
- ◆ 対象の永続性(object permanence)
- ◆ 物事が知覚されていなくとも存在し続けるという意識
- ◆ この時期には対象の永続性が欠如している



<https://twitter.com/truongasm/status/1032402972817252352>

乳児期と学童期

前操作期 (preoperational stage)

◆2歳～6-7歳

◆数量の保存(conservation)

◆対象の形が変わっても重さ，体積，数といった属性は同じという原理

◆6歳未満の子どもには数量の保存が欠けている

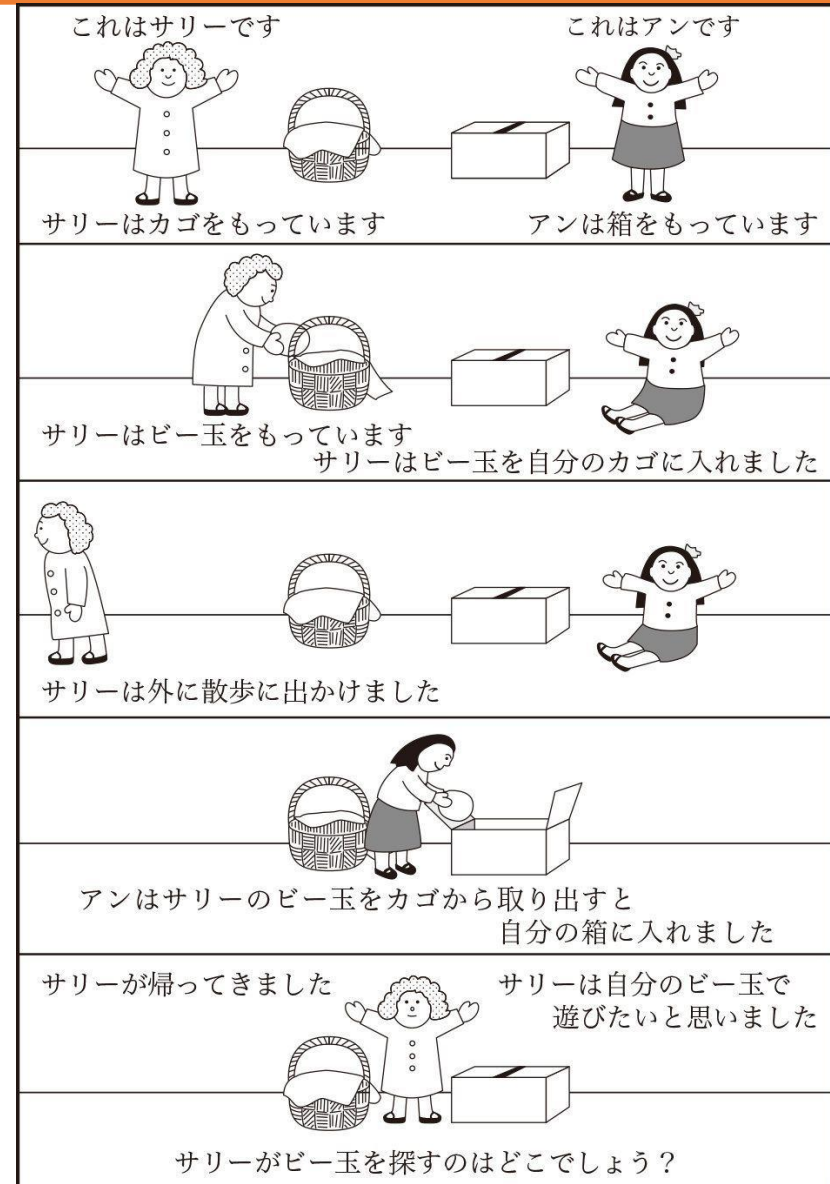


乳児期と学童期

前操作期

心の理論 (theory of mind)

- ◆自分とは異なる信念をもった行為として他者を捉える
- ◆生後7歳近辺で、他者の信念について何らかの知識があることを表す
- ◆自閉症をもつ人は心の理論に障害がある
- ◆測定方法
 - サリーとアンの課題



乳児期と学童期

具体的操作期 (concrete operational stage)

- ◆ 7歳～11歳頃
- ◆ 数量の保存(conservation)の概念をつかみ始める
 - 心の中で水を注げる
- ◆ 自己中心性が弱まり, 他者の視点に立つことができるようになる



乳児期と学童期

形式的操作期 (formal operational stage)

◆12歳以降

◆科学者流のものの考え方ができるようになる

- **もし**これだとすると, ならば**あれ**だ (if, thenの考え)



青年期

身体的発達

◆思春期／急激な身体的発達

- 男性はおよそ13歳頃
- 女性はおおよそ11歳頃

◆第一次性徴／生殖を可能にする身体構造の発達

- 子宮，精巣，外性器

◆第二次性徴

- 生殖とは別の性的特徴
- 女性では胸や腰の周り，男性では声質，体毛

青年期

社会的発達

◆アイデンティティ (identity, 自己同一性)

- 自己の意識
- 例／友人と家族親戚での自分の振る舞いが異なる

◆社会的アイデンティティ (social identity)

- 自己概念のうち「我ら」の側面。集团的構成員としての答え方
- 例／留学生, 外国にいる日本人, 成蹊大生



青年期

社会的発達

- ◆アイデンティティの形成は親離れに繋がる
- ◆ポジティブな親子関係との関連
 - ポジティブな仲間関係(Gold & Yanof, 1985)
 - 健康, 幸福, 学校での好成績(Resnick et al., 1997)
- ◆仲間の影響
 - 「みんながやること」は自分もやる
 - 平均的アメリカ人13～17歳は一カ月に1700通のテキストのやり取りをする(Steinhauer & Holson, 2008)

成人期以降

年齢	エリクソンのステージ
20～30代	成人期
65歳まで	壮年期
65歳以降	老年期



<http://www.rehab.go.jp/ddis/発達障害に気づく/ライフステージ別/青年・成人期/>

エリクソンの理論による成人期

◆仕事，結婚，出産

身体的側面

◆身体能力はピーク。20代半ばから衰え始める

◆健康と運動神経との関連

◆普段から6km走っていれば問題ない。20代で階段に上っただけでも息切れすることがある

成人期以降

社会的側面

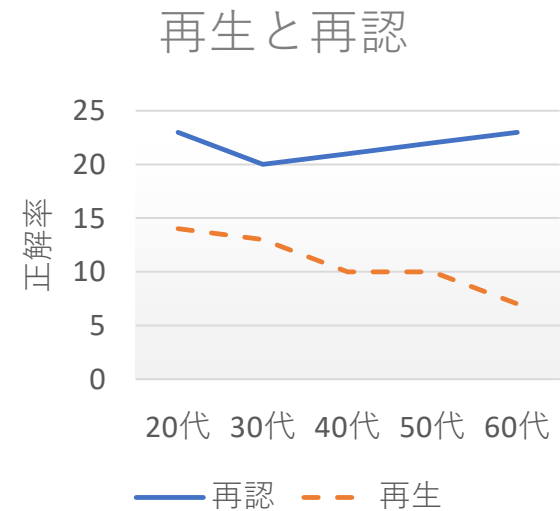
- ◆ 中年の危機 (Midlife crisis)
- ◆ 人生が未来ではなく過去を指し始める時期
- ◆ 40代で直面する苦闘, 後悔, 人生に打ちひしがれる体験
- ◆ 実際はその時期にいきなり押し寄せることはない
 - 離婚は20代に最も多い
 - 自殺は70～80代に最も多い

(Hunter & Sundel, 1989; Mroczek & Kolarz, 1998)

成人期以降

心理的側面

- ◆歳をとっても自分の10代や後半や20代の出来事を最も重要と意識しがち
 - 大学初日, 初仕事, 初デート 等
- ◆再生／過去に会った人の名前を思い出す
 - 加齢とともに衰える (Crook & West, 1990)
- ◆再認／過去に会った人の顔を認識する
 - 加齢による差はなかった (Schonfield & Robertson, 1966)



(Schonfield & Robertson, 1966)

成人期以降

死・臨終

- ◆老年期になるにつれて死別体験が多くなる
- ◆喪失体験の多様性
- ◆強い悲しみを表出してもしなくとも回復は同じぐらい(Bonanno & Kaltman, 1999)
- ◆キューブラー＝ロスの死の受容プロセス



成人期以降

壮年期の健康

- ◆がんや肺炎など病気にかかりやすくなるが
- ◆インフルエンザウイルス性は20歳の半分，未就学児の1/5

壮年期の幸福感

- ◆上昇する傾向にある
- ◆ネガティブ感情が低下していく
- ◆感情が安定してくる

まとめ

◆発達心理学では、生得要因と獲得要因，連続性と段階性，安定性と変化で発達を評価したり説明を試みる

児童期までに獲得するの代表的な機能

◆対象の永続性

- 物事が知覚されていなくとも存在し続けるという意識

◆数量の保存

- 対象の形が変わっても属性は同じという原理

◆心の理論

- 自分とは異なる信念をもった行為として他者を捉える

まとめ

思春期

- ◆身体的な発達とともにアイデンティティの形成が進む

成人期以降

- ◆様々なライフイベントを迎えるとともに身体的能力が徐々に衰えてくる
- ◆中年の危機
 - 人生が未来ではなく過去を指し始める時期
- ◆老年期を迎えると死別体験が増えるが幸福度も上がる傾向にある

引用文献

- Bonanno, G. A., & Kaltman, S. (1999). Toward an integrative perspective on bereavement. *Psychological bulletin*, 125(6), 760.
- Crook, T. H., & West, R. L. (1990). Name recall performance across the adult life-span. *British journal of Psychology*, 81(3), 335-349.
- Gold, M., & Yanof, D. S. (1985). Mothers, daughters, and girlfriends. *Journal of Personality and Social Psychology*, 49(3), 654.
- Hunter, S. E., & Sundel, M. E. (1989). *Midlife myths: Issues, findings, and practice implications*. Sage Publications, Inc.
- Mroczek, D. K., & Kolarz, C. M. (1998). The effect of age on positive and negative affect: a developmental perspective on happiness. *Journal of personality and social psychology*, 75(5), 1333.
- Resnick, M. D., Bearman, P. S., Blum, R. W., Bauman, K. E., Harris, K. M., Jones, J., ... & Ireland, M. (1997). Protecting adolescents from harm: findings from the National Longitudinal Study on Adolescent Health. *Jama*, 278(10), 823-832.
- Sayal, K., Heron, J., Golding, J., Alati, R., Smith, G. D., Gray, R., & Emond, A. (2009). Binge pattern of alcohol consumption during pregnancy and childhood mental health outcomes: longitudinal population-based study. *Pediatrics*, 123(2), e289-e296.
- Schonfield, D., & Robertson, B. A. (1966). Memory storage and aging. *Canadian Journal of Psychology/Revue canadienne de psychologie*, 20(2), 228.
- Steinhauer, J., & Holson, L., M. (2008, September 20). As text messages fly, danger lurks. *New York Times* (p. 198)